



トウモロコシ

大網経済センター
営農指導員 椎名 康隆

農業

テクニカル

Agricultural - work

ダイアリー



technical diary



春ブロッコリー

やさいの里営農センター
営農指導員 宇井 文英

最近、紋枯病、すす紋枯病の発生が見られますので注意してください。アブラムシは、浸透性の薬剤で予防し、収穫時期はモスヒラン顆粒水溶剤を使用します。



病害虫防除

- ① 未熟の有機物によるガス害を防ぐため、前作の残渣、堆肥が十分馴染んでから播種する
- ② 地温を上げるため、マルチは最低3日前に張る
- ③ 植穴の深さは1〜2センチ程度とし、極端な深播きや浅播きは避ける
- ④ 覆土は軽く鎮圧する



播種

発芽を安定させるポイントは以下のとおりです。
① 未熟の有機物によるガス害を防ぐため、前作の残渣、堆肥が十分馴染んでから播種する



品種選定

部会の奨励品種は表①のとおりです。平成30年産より、早期のトンネル栽培に適した「ゴールドラッシュネオ」が指定品種となります(写真⑤)。その他の品種についても、栽培する品種特性を確認して選定しましょう。



トンネル管理

最高気温が30℃以上にならないように注意します。穴あけ換気から始まり、徐々に間隔を狭めて生育が進んだら四方換気を行います(写真①)。



定植

土壌水分を目視等確認し、マルチを事前に張り、地温を確保します。本葉2・5〜3枚で定植し、子葉が埋まる程度に植え付けます。老化苗の定植は、ポトニング(早期出蕾)の原因にもなりますので注意してください。



施肥(基肥)

春ブロッコリーは基肥中心で行い、10坪あたり窒素15キ、リン酸20キ、加里15キを基本とします。石灰分も重要になるので同時に施用します。「プランドーム」「サマードーム」など吸肥力の強い品種を栽培する場合は、基肥を2割程度減らします。



品種選定

表① 平成30年産とうもろこし部会奨励品種

系統	品種名	種苗会社	日数タイプ	作型	播種時期目安	特徴
イエロー	ゴールドラッシュネオ	サカタのタネ	82~83	早期トンネル	3月10日まで	雌穂はゴールドラッシュより大きめ、先端不稔は少なくよくそろうので秀品率が高い。若干ゴールドラッシュより草丈が高くなる。
	ゴールドラッシュ	サカタのタネ	83~84	トンネル・マルチ	3月20日までトンネル栽培	中早生タイプ、発芽、低温伸張性がよくハウス栽培から使える。先端不稔は少なく、収穫物は2Lで安定する。
	恵味スター	清水種苗	87		中早生タイプ、低温時の発芽安定。草丈は180~190cm程度で、根張りよく倒伏に強い、しなびにくい。	
	ゴールドラッシュ90	サカタのタネ	90		熟期は90日の中晩生イエロー。錦糸抽出日から収穫までの期間は現行並みだが、糖度が高くしなびにくい。草勢がよく、倒れにくい。	

※ゴールドラッシュは3月20日以降の播種は厳禁とします(適期収穫を心掛け、しなび発生を防止しましょう)。

また、アワノメイガの防除は、雄穂出穂初期、雌穂出穂盛期、雌穂絹糸出穂盛期が有効です。

10月の分析経過について		合計14点			
残留農薬分析点数	多成分一斉分析	越冬ナス	1点	ハクサイ	1点(緑の風)
		ダイコン	1点	トマト	1点(緑の風)
		サツマイモ(ちばエコ)	1点	根ショウガ	1点(緑の風)
		ブロッコリー	1点	ニンジン	1点(緑の風)
		サラダ菜	1点	里芋	1点(緑の風)
		コマツナ	1点(インショップ)	ダイコン	1点(緑の風)
		リーフレタス	1点(インショップ)	ほうれん草	1点(緑の風)
		合計25点			

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数



写真⑤

平成29年度
ゴールドラッシュネオ試作試験結果
(播種2月28日、収穫6月14日)



写真① 換気中のブロッコリー圃場



写真② 花蕾腐敗病①



写真③ 花蕾腐敗病②



写真④ 花蕾腐敗病③

トンネル除去に合わせて追肥を行います。1回の目安は10坪あたり窒素3〜4キ、リン酸2キ、加里3キを基本とします。硝酸加里S842では1袋が目安となります。肥料切れによる樹勢の低下、風害などにより傷んだときは、窒素系の葉面散布により回復させましょう(メリット青500倍、1000倍/10坪など)。ただし、花蕾の色を向上させる効果も期待できますが、多用は病害を誘発しますので注意が必要です。



病害虫防除

時期別の病害虫防除を徹底し、早期からの対策を心がけましょう。花蕾腐敗病(写真②〜④)や軟腐病については、秋作において多発しており、春どりにおいても注意が必要です。



追肥

発生後の防除が困難で、好適環境下では一気に拡大します。高温・多湿、また花蕾のまとまりが悪いときは注意して予防散布を行います。出蕾後3〜4日後に有機銅剤(エポルドーなど)を散布します。なお、ベンレート水和剤がブロッコリーの菌核病に登録拡大しました。



鳥害対策

周辺環境を見直し、雑木林・畜舎・電線などの誘引物周辺への作付けを避けます。防鳥ネットでは網目2〜3センチのものが効果があります。露地の場合は出蕾前から、トンネルの場合は被覆除去後から設置して予防しましょう。鳥おどしや反射テープなどでは慣れが生じます。単体の使用では防除効果が薄いため、防鳥網や不織布と併用して効果を持続させましょう。